

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：25515

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇児童アンケートから、「新しく学んだことを他の場面や学習に使おうとする子どもが多い」という実態がある。</p> <p>◇教材とつながることで「～したい」という思いを生み、子どもと子どものつながりを重視することにより、「自分の意見を進んで発言しようとしている」「自分の伸びや成長を感じることもある」児童の多いことが、共通指標から明らかになった。</p>
	<p>◇「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている」という児童が共通指標「自ら学ぶ方法」「人と学び合う方法」の観点の中で低い傾向がある。</p> <p>◇一人一人の考えが集団でどのように生かされているのかを子どもたちに実感させることで、人と学び合う必要感を持たせたり、自分の学び方を構築させたりすることが重要である。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市の共通指標にある「自分が必要とされていると感じる」の項目が、相互承認に関連する項目の中で、低い傾向にある。「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目は、高い傾向にある。ふれあい活動の振り返りの場などにおいて、一人一人の言動により全校で楽しい時間を創れていると伝えることで、自己肯定感を高めることが重要になる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 教材とつながり他者とつながることで活用できる知識及び技能

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>◇見通し→行動→振り返り（AAR サイクル）を通して、学びと学びのつながりを子ども自身が発見し、学びを活用・発揮する楽しさや喜びを味わえるよう単元や題材というスパンを大切に授業の構築。子どもがAARサイクルの学び方を身に付けるための手立ての工夫。</p> <p>◇単元のイントロダクションにおいて、子どもの思いをより多く引き出すことで、他者と協働する必要感を生む。</p> <p>◇学びの変容を実感する振り返る場を設定。「本物の経験」を生み出すことで次時や教科を越えた実生活へと学びを広げる姿を目指す。</p>	<p>◇ふれあい活動や委員会活動において、子どもの「〇〇したい」という思いを大切に、目標を明確にする。</p> <p>◇子どもの「〇〇なグループにしたい」という目標を達成するために、各グループの話合い（みどり児童会）の時間を活用して、ふれあい遊びやふれあい行事を企画・運営したり、計画に責任をもって行動したりする。</p> <p>◇一人一人の言動をしっかりと振り返る場を設定することで、自分に自信をもてるような価値付けを行う。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇課題探究的な学習や自主的な活動において、子どもの考えを一齐に出したり、意見を分類・整理したり、他グループの意見を相互参照したりする場面で、ICTを効果的に活用していく。そうすることで、一人一人の子どもの思いをより多く引き出しながら、他者との考えを比較し、新たな学びや思いをもつことにつながると考える。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>



